

日本産科婦人科学会 シンポジウム

「無精子発覚のドン底から、無精子に感謝するまで」

「4歳の娘に3年間告知してきた父親から見た、出自を知る権利」

**すまいる親の会 代表
一般社団法人 AID当事者支援会 代表理事**

寺山 竜生

2023.01.15

自己紹介

寺山 竜生 (てらやま りゅうせい)

すまいる親の会：代表、 AID当事者支援会：代表理事

一般社団法人 AID当事者支援会は、

- ・すまいる親の会で、5年に渡り延べ10回以上当事者向けセミナーを開催
- ・提供精子で子どもを授かりたい夫婦、授かった家族、**370人**が参加する**日本最大**のAID当事者の会 (LINEオープンチャット) を母体とする組織として発足
- ・はらメディカルクリニックと合同で「提供精子で妊娠する前に考えておくこと」などの当事者向けセミナーを開催
- ・特定生殖補助医療法案 (3月骨子案) への要望書を超党派議連に提出
- ・自民党の厚生労働部会「生殖補助医療に関するPT」の座長である古川俊治参議院議員、片山さつき参議院議員と、AID当事者の代表として特定生殖補助医療法案の良い点や改善要望などについて会談
- ・その他、読売新聞、不妊治療雑誌などメディア掲載多数



こころでつながる家族をつなげる

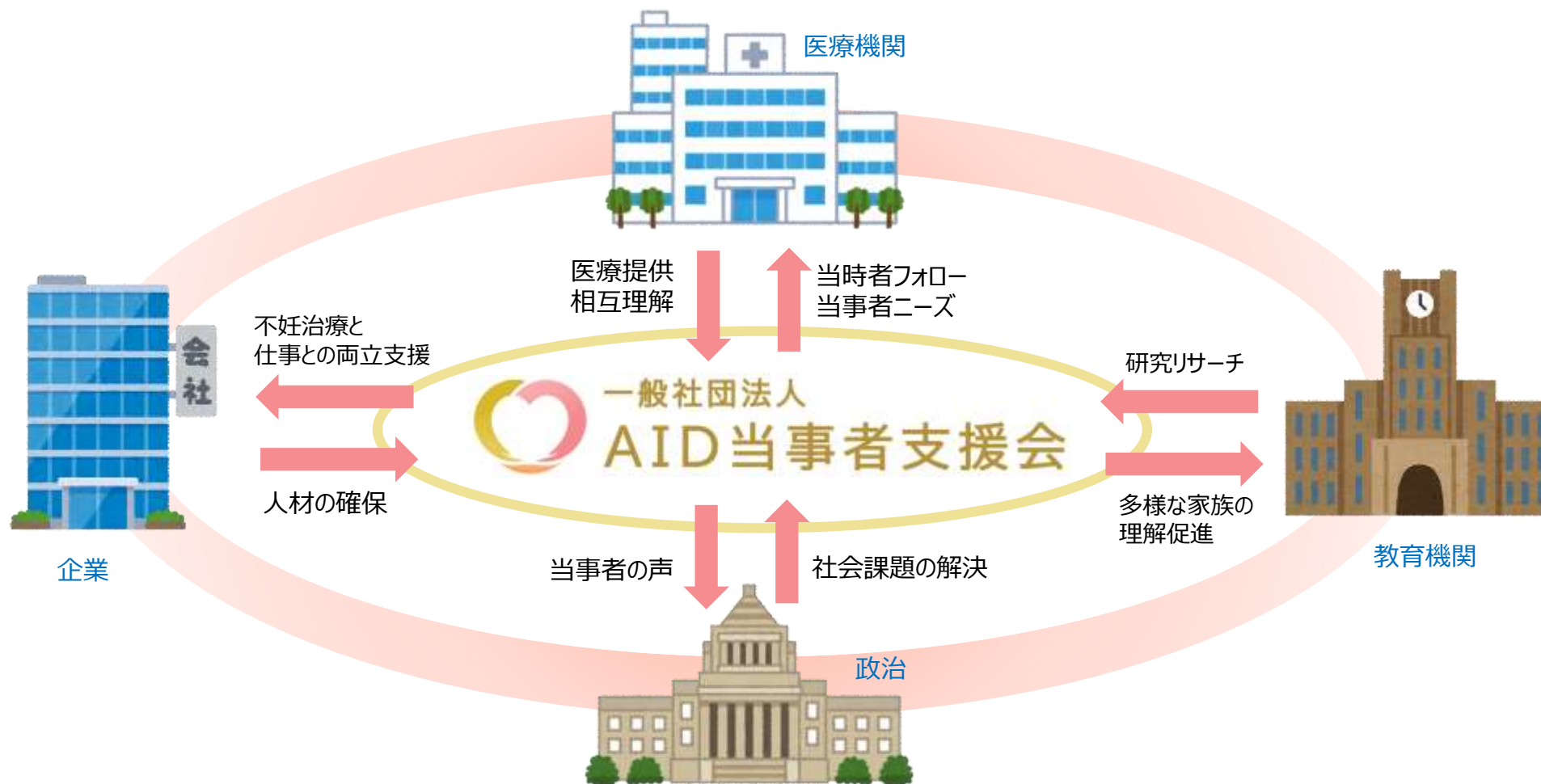
一般社団法人
AID当事者支援会

AID当事者支援会が目指す姿（役割）

提供精子で子どもを授かることについて当事者と共に考え、

当事者・医療・企業・教育・政治と連携し、親の不安・子どもの悩みを解決していく組織です。

誰もが、多様化した家族のカタチを認める社会の実現を目指しています。



今日させていただく、2つのお話

本編である

「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療についてー議論すべき課題の抽出ー」についてのちほど、**4歳の娘に3年間告知してきた父親から見た、「出自を知る権利」**のお話をさせていただきます。

その前に、私が娘を授かるまでの経緯、具体的には男性として無精子を受け入れる葛藤、AID治療を開始するまでの夫婦での話合い、父親からの告知など、

男性当事者からの

リアルな体験談をお話してから「出自を知る権利」についてお話させていただくことで、より議論すべき大切なポイントが抽出できるのではないかと考え

最初に、私が無精子発覚のドン底から、無精子に感謝するまでのお話しをさせていただきます。

日本産科婦人科学会 シンポジウム

「無精子に感謝！」
無精子発覚のドン底から、無精子に感謝するまで

すまいる親の会 代表
一般社団法人 AID当事者支援会 代表理事

寺山 竜生

1. 無精子とわかった「ドン底時」の思考・行動
2. 無精子の体を受け入れるために
3. AID実施に向けた積極的な決断
4. AID治療が妻ひとりの治療になっていた
5. 出産はゴールではなくスタート
6. 告知は愛を伝えるメッセージ

わたしの治療の経緯

結婚して数年後にはじめた妻の不妊治療で

無精子症発覚、日本国内での**AID**を**20**回実施

妊娠にいたらず、**台湾**での顕微授精で妊娠

現在 **4** 歳の **娘** の父親。

1歳から、絵本などを使って告知を行っている。

1-1. 無精子とわかった「ドン底時」の思考・行動

2013年11月 産婦人科から帰宅した奥さんから「精子がないんだって」と告げられました。

① 人生観崩壊

いわゆる「普通の家族」はもう持てない。人生の終わりを感しました。

男として「精子がない」というのは、耐えられない屈辱だったし、なにかの間違いじゃないのか？

「自分は、なんのために産まれてきたんだらう？」

どこから何を考えていいかわからない。文字通り「頭の中が真っ白」という状態でした。

② 自己否定

最初にとった行動は自己否定でした。

具体的にいうと、子どもなんていらないよ、どうせ俺、持てないし。

他人の精子で子ども？ はあ？ ありえない。もう離婚でいいよ。お前もそれを望んでるんだらう？ と投げやりな態度を繰り返し、夫婦での話合いなどとても持てる状況ではなかったです。



1-2. 無精子とわかった「ドン底時」の思考・行動

③責任転嫁

そのうち無精子の原因を 周囲へ責任転嫁しはじめました。

自分の親に対して「こんな体に俺を産みやがって！」とか

まったく根拠もないのに、学生時代に海外から個人で輸入したサプリを飲んでいたので、あのサプリに精子がなくなるホルモン剤がはいっていたんじゃないか？

あのサプリ会社を訴えてやろうか？とか まさに自暴自棄になっていました。

④現実逃避

ひとしきり、ふてくされて、周りに責任転嫁しても、無精子の体がもとに戻るわけでもないので、最後は、思考が停止して、とにかく話すことがイヤになりました。

本当に離婚でいいと思っていました。

奥さんから子どもや将来の話をされても、「うるせーな、もういいよ。勝手にしろよ！」と怒ることが増えていったのです。

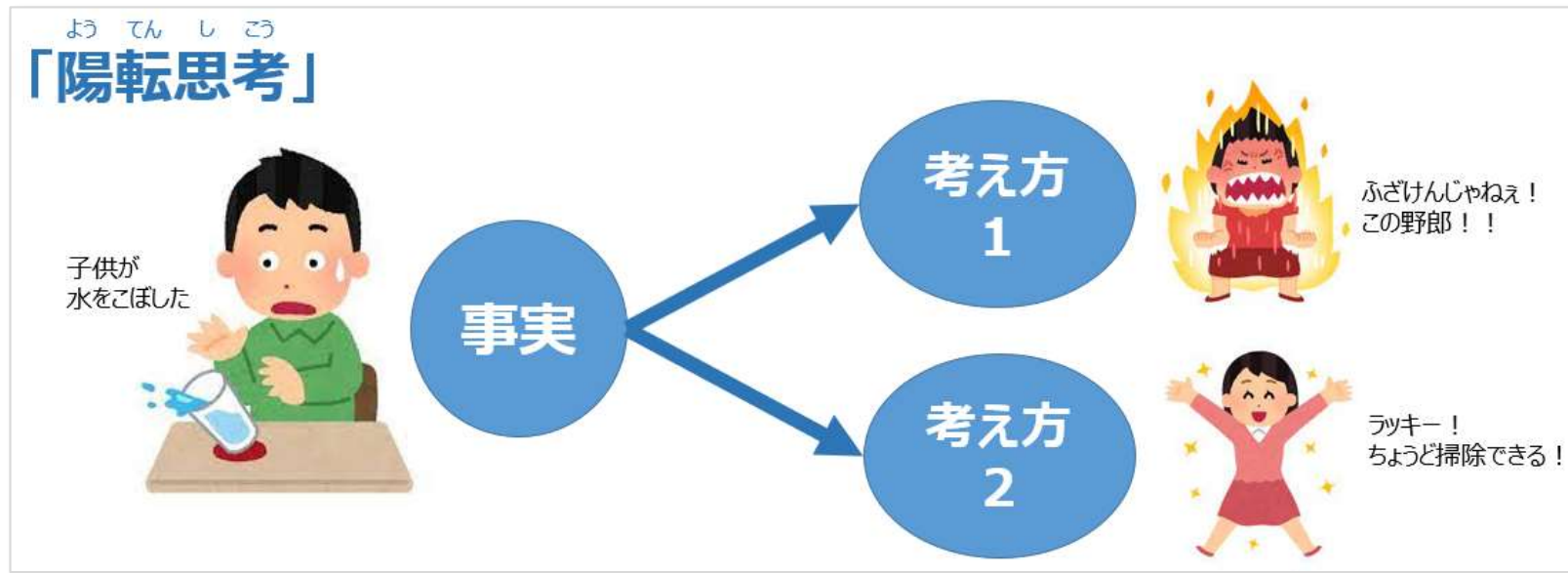
2-1. 無精子の体を受け入れるために

こんな行動や思考を続けていましたが、数か月経ったある日
この後の人生を夫婦2人で生きていくにしても、養子をもろうにしても、AIDをやるにしても
最悪、離婚するにしても
これからもこの体と生きていくためには、
「精子がない自分」について正面から向き合って考えないと幸せになれないな。と考え始めました。

無精子である自分を納得させ自分を受け入れて、ありのままを認めるために
いろんな言葉や考え方を探しました。

そんな中で、僕が無精子の自分を受け入れるきっかけになった考え方のひとつが、
「陽転思考」という考え方でした。

2-2. 無精子の体を受け入れるために



「陽転思考」は、**起きた事実は、ひとつだけど、考え方は2つあるよ、っていう発想で、**
たとえば、子どもが床に水をこぼしたって事実がひとつあるとして、
その「水をこぼしたって事実」に対して、
馬鹿野郎！水なんかこぼしやがって！ふざけんじゃねーよ！と考えるか？
おっ！ちょーど床掃除も出来てラッキー！水こぼしてくれてありがとう！って考えるか？
2つあるよ。
で、ラッキーって考えたほうが、人生楽しくない？って考え方です。

2-3. 無精子の体を受け入れるために

僕はこの「陽転思考」という考えにすごく救われて、無精子で失ったものもあるけど、**自分の人生や、将来設計について落ち着いて考えるキッカケももらえてよかったな。**とか無精子じゃなかったら、こんなに子どもの幸せや、夫婦の将来を考えることなかったのに、考える時間をもらえてよかったなあ！ と思うようになりました。

こじつけかもしれないけど、無精子の自分を肯定したり認めたり、**少しずつ無精子でもいいじゃん！**と思えるようになってきました。

特に、子どもができてからは無精子の自分を肯定することが増えてきて最近では、「**この子に会うために神様は僕に無精子をプレゼントしてくれたのかな？**」とまで考えるようになっていきます。

事実、無精子じゃなかったら、わが子には絶対に会えないわけですし。無精子じゃなければ、皆さんとこうして出会うこともなかったですし、こういったお話をさせていただくこともなかった。

2-4. 無精子の体を受け入れるために

いまでは、無精子のおかげで本当に多くの方とつながり、縁を結んでもらえて**無精子に感謝すらしてる**自分がいます。

ここまで行かなくても、男性が無精子の自分を許し受け入れられていると治療の時の奥さんも旦那さんに悩みや不安を言いやすいし、旦那さんからも奥さんの治療に積極的に参加できるようになると思います。



逆に、ここで男性が「無精子の自分」としっかり向き合って受け入れることができていないと「血縁」や「遺伝」へのこだわりが捨てきれずこのあとの夫婦での話合い、子どもへの告知、家族の関係性がうまく進まない方が多くいます。

3-1. AID実施に向けた積極的な決断

無精子を受け入れた後も、AIDを決断するまでには、夫婦で何度も何度も話し合いました。特に本当に子どもが欲しいのかについては、無精子症の夫婦が陥りやすい「奥さんが欲しいって言うから」とか、「俺に原因があるから」という消極的な理由ではなく

周囲がどんな意見だろうと、誰に反対されようが、親のエゴだと言われようが「自分が欲しいのか、欲しくないのか？」を問いかけて自分たちが心から本当に「積極的に」子どもが欲しいのか、を話し合いました。

この時期は、自分たちの考えだけではなく、ブログ・本など、いろんな方の意見に触れ、聞く耳をもって反対意見も読み、将来の家族像について話し合いました。養子あっせん団体の説明で 実際の養子、養親にあたりもして夫婦の意見を確立していきました。



3-2. AID実施に向けた積極的な決断

正直最初は、2人の意見が分かれていたし、途中で自分や奥さんの意見が変わってしまうことも 何度もありました。

でも、良くないのは 理解し合えない。どうせわかってもらえない。っと、話し合うことをやめてしまうことだと思います。話し合いをやめたら 何も前に進まないと思います。

私達は、トコトンまで言い合って疲れて夫婦の間に 険悪な空気が流れたら、ひと休みして、お互い冷静になったらまた話し合いを始める、 それ繰り返し、**とにかく夫婦での話し合いを繰り返しました。**



3-3. AID実施に向けた積極的な決断

実は 話し合いを始めた当初、わたしは「養子縁組」を希望していました。
子どもが欲しい気持ちはありましたが、
正直に言って、**妻の身体に他人の精子を入れることがどうしても許せなかった**ですし、
その精子が誰のものともわからないというのも 当初、私がAIDを選択できなかった理由でした。

一方で、妻に女性として産まれてきた以上、
子どもを身ごもって、出産するという経験もしてもらいたい。

まだ、妻には年齢的にも 出産を経験出来る可能性があって、
それにはAIDを選択するしかないのも事実でした。

そこで、次に 血縁にこだわりながら、妻が出産を経験できる
わたしの 弟の精子を使った **親族間AID**も考えました。



3-4. AID実施に向けた積極的な決断

弟を提供者とするれば、 遺伝上の父親も明確になりますし、自分との血縁もつながり、妻も出産を経験できます。実際、弟に提供を依頼する直前の段階までいきました。

でも、弟を父親とすることで、弟との親族関係が複雑になったり、万が一にも 私の子どもが原因で、弟家族と私達家族の関係が崩れたりしてしまったりは、私の子どもがそれを知った時に余計に苦しんでしまうのではないかと

また、弟の家族に わたしたちのこの問題を一緒に背負わせるのは違うかな？と考えた結果 **血縁にこだわるよりも、自分の子どもを どう幸せに育てていくかを考え**

血縁を優先するより、非配偶者間での治療を選択しようと決めました。

4-1. AID治療が妻ひとりの治療になっていた

話合いの結果ようやく始まったAIDでしたが
提供精子（AID）で治療をすると決めたら、
あとは奥さんだけで治療はどんどん進んでいくという特徴があります。

わたしも、AIDを決断するまでは一緒に悩んだし、治療開始して間もないころは奥さんの 体調の心配や、気遣いを自分なりにしていましたが

そのうち治療の相談をされても、スマホやりながら上の空。ゲームばかりで話合いしない。明日が治療だというのに、ひとりでビール飲みながらテレビみてバカ笑い



4-2. AID治療が妻ひとりの治療になっていた

気づいたら、途中からAID実施同意書に署名するだけの「署名オジサン」になっていました。

もし、そんな状態のまま治療を続けていたら
いざ妊娠しても子どもに興味がもてなかったと思います。

そんな状態で治療が数か月続いたときに
妻から「今日何回目目のAIDかわかる？」との質問にまったく答えられず、

なんとなく、7回？。と答えるも沈黙…

悲しい声で10回目だよ。

と言われ、2人の治療であるにも関わらずそんな事にもこたえられない申し訳なさ
いつの間にか妻1人の治療になっていたことに気づかされました。

4-3. AID治療が妻ひとりの治療になっていた

それからはできるだけ一緒に通院したり、効果のありそうなサプリを一緒に探したり、リセットした時には一緒に気分転換したり…。

自分ができる事を自分でさがし、何も出来ないときは妻の話を聞いただけだっていいし
リセットした日には2人で悲しみ、一緒に気分転換して、次の治療に挑む、そう心がけました。

治療している女性の中にはツラくて泣きたくても、涙を流しているところを旦那にみせると旦那を責めているようで泣くことすらできない、という方も多く聞きます。



4-4. AID治療が妻ひとりの治療になっていた

妻が泣きたい時に泣かせてあげる事もできないなんて、男にとってもつらい事だと思いました。だからせめて、奥さんの愚痴や弱音を聞きやすい環境を作っていこうと心がけました。

血縁がなくても、2人の子どもという自覚をもち
子どもが生まれる前から、親になっていく準備を2人でしていくことはできると思います。



5. 出産はゴールではなくスタート

そして、子どもを授かった時は大喜びしたのですが、提供精子での治療は、実際の治療に入るまでにも沢山の苦労や悩みがあり、いざ治療が始まって時間もかかり、途中で迷ったり苦しんだりしているとつい妊娠出産がゴールと勘違いしやすくなります。

でも、我々提供精子で子どもを授かった家族にとって、**出産はスタート**です。

出産の後には、通常の子育てがあり、そのなかに出自を伝える「告知」があります。そしてこの**告知は一度したら終わりではありません**。

子どもの成長と共に**何度も繰り返し**伝え、子どもが納得し、子どもと良好な関係を継続して**子ども自身が、産まれきてよかった！幸せだ**と思える環境を家族で作りに上げていく事が大切だと思います。



6-1. 告知は愛を伝えるメッセージ

告知のタイミング、方法、内容については、先輩方の意見を聞いてもまだまだ資料も少なく手探り状態です。

でも現在、幼少から告知をしている当事者家族のお話を聞くと皆さんとても幸せに前向きに良好な親子関係を築いている方が多くいらっしゃいます。

「告知」というと、とても大げさな感じがしますがわたし達は子どもへの愛を伝える日常の会話として産まれてきてくれたことへの感謝を伝えながら、少しずつ提供精子の話をしています。

実際の告知には絵本を使いながら、「提供精子で産まれたんだよ」という事実だけではなく「パパとママは、君に会いたくて親切な人をお願いしたんだよ。」
「世の中にはいろんな家族がいて、いろんなカタチがあるんだ。僕たちもそんな様々な家族のひとつのカタチなんだよ」というように伝えています。

6-2. 告知は愛を伝えるメッセージ

今わたしは、無精子であることを誇りに思っています。
提供精子で授かったからこそその出会いがあり、自分の価値が広がったと
本気で無精子に感謝しています。

娘がもう少し大きくなったら、
『パパの無精子や、君が提供精子で産まれたことは、見る人にとっては「傷」かもしれないけど、
パパはこの「傷」を「美しさ・強さ」に変えるために、こんな生き方をしてきたんだよ』と

その日までのすべてを胸を張って話そうと思います。

そして、この意味を娘が理解した時に僕から彼女への「告知」が終わるんだろうと思っています。

日本産科婦人科学会 シンポジウム

「4歳の娘に3年間告知してきた父親から見た、出自を知る権利」

すまいる親の会 代表
一般社団法人 AID当事者支援会 代表理事

寺山 竜生

1. 出自を知る権利は、 親が子どもに告知しやすく、子どもが告知されやすい権利にすべき

出自を知る権利の制度として、

提供者が匿名か非匿名かは、

提供時に提供を受ける家族が**知る**ことが出来るようにすべき

2. 特定生殖補助医療法案における、出自を知る権利の問題点

にもかかわらず、法案の下線部分を解釈すると

提供者が匿名か非匿名かは、成人時まで提供を受けた家族が知ることが出来ない。

特定生殖補助医療法案（たたき台）

第7 独立行政法人における同意書と夫婦・生まれた子・提供者の情報の保存等

(1) 独立行政法人は、第2の5及び第3の3により提出された同意書と、第2の1による特定生殖補助医療の提供を受けた夫婦、生まれた子及び精子・卵子の提供者に関する情報を100年間保存するものとする。

※ 同意書については、親子関係に関する紛争があつて必要がある場合に開示する旨の規定を設ける。

(2) 独立行政法人は、自らが第2の1による特定生殖補助医療により出生した子であると思料する者であつて成年に達したもののから、認定実施医療機関から提出された自らの情報を保存しているかどうかの確認を求められたときは、回答するものとする。

(3) 独立行政法人は、第2の1による特定生殖補助医療により出生したとして独立行政法人で情報が保存されている子であつて成年に達したもののからの求めに応じ、精子・卵子の提供者に対し、その提供者の情報を子に提供することの要請を伝えるものとする。

その上で、提供者から独立行政法人に対して子に提供する情報についての回答があつたときは、独立行政法人は、その内容を子に伝えるものとする。

3-1. 匿名か非匿名かは、提供時に知ることが出来るようにすべき理由

なぜ、提供者が匿名か非匿名かは、提供時に提供を受ける家族が知ることが出来るようにすべきなのか？

まず、出自を知る権利には2つの段階があり、かつ、その2つの告知は連動している。

① 子どもがAIDにより出生した事実を知ること

+

② 精子提供者が匿名か非匿名かの情報を知ること

3-2. 匿名か非匿名かは、提供時に知ることが出来るようにすべき理由

現状は、提供者が匿名か非匿名かは、提供時に提供を受ける夫婦が知ることが出来る
匿名ならば匿名なりの、非匿名ならば非匿名を前提とした告知方法がある。

	①自分がAIDにより出生した事実	②精子提供者が匿名か非匿名かの情報を伝えること			
	①の告知例	②の告知例		成人後の子どもの心理	
現状	<p>パパには タマゴ（精子）がなくて 親切な人に タマゴをもらえたから 君に会えたんだ</p> <p>パパとママは 助けてくれた人にとっても感謝してるよ</p>	匿名	<p>サンタクロースみたいな親切な人がいて、 パパとママを助けてくれたんだよ。 会えないけど、すごく大切な人なんだよ</p>	匿名	<p>会えないけど、助けてくれた人がいたから産まれてこれたんだな。</p>
		非匿名	<p>助けたくれた人がいるんだけど、こんな人なんだよ。 大きくなったらお手紙だそうね。</p>	非匿名	<p>この人が助けてくれたんだ。会いたくなったら会いに行こう！</p>

親切な人って？

3-3. 匿名か非匿名かは、提供時に知ることが出来るようにすべき理由

法案のように、提供者が匿名か非匿名かは、**成人時**まで提供を受けた家族が**知ることが出来ない**。とすると「②提供者が匿名か非匿名かの情報を伝える」基礎に不確定要素が増えることから、「①AIDで出生した事実の告知」すらできなくなる夫婦が増える。（告知全体をしなくなる＝出自を知る権利がなくなる）

	①自分がAIDにより出生した事実	②精子提供者が匿名か非匿名かの情報を伝えること			
	①の告知例	②の告知例		成人後の子どもの心理	
法案	<p>パパには タマゴ（精子）がなくて 親切な人に タマゴをもらえたから 君に会えたんだ</p>	<p>わからない</p>	<p>助けてくれた人のことは、大きくなったら、わかるかもしれないし、わからないかもしれないんだ。</p>	匿名	親から18歳になったら「わかる」って聞いてたのに・・・期待してたのに・・・裏切られた！騙された！！
	<p>パパママは 助けてくれた人にとっても感謝してるよ</p> <p>告知自体をやめよう</p>		<p>親の内心 18歳までわからない、となるとあいまいな告知しかできなくなる。変な期待をさせてしまうなあ。</p>	<p>親の内心 どっちになるかわからないから説明が難しいな</p>	非匿名

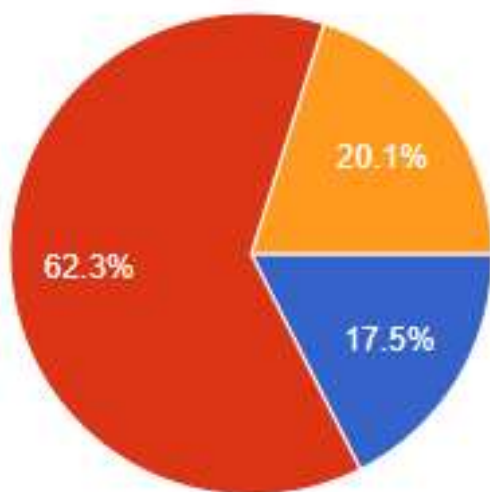
4. 子どもが成人まで提供者が匿名か、非匿名かわからない点に対する当事者アンケート結果

※特定生殖補助医療法案（3月骨子案）に対する 超党派議連への要望書より抜粋

実施日：令和4年9月12日～9月25日（13日間）、アンケート方式：WEB・多肢選択方式
対象者：第三者からの精子・卵子提供で子どもを授かるう若しくは授かっている方、回答数：158件

提供者が匿名か非匿名か成人時まで知ることが出来ないことに反対が62.3%（98人）

- 問1：出自を知る権利を認めるにあたり、今回の法案では提供者は精子提供の時点では匿名か非匿名かを定める必要はありません。提供精子で生まれた子どもが18歳になり提供者が誰なのか知りたい時になってから提供者は情報を開示するかどうかを判断すればよいとなっています。この法案の内容に賛成ですか？反対ですか？



- 賛成
- 反対
- どちらとも言えない

反対の理由として、
提供時点で決めて欲しい（子どもに告知しにくい）：58件
子どもの出自を知る権利を奪う：24件

賛成の理由としては、
提供者の権利も尊重すべき：9件、
提供者不足になる懸念がある：2件

5-1. まとめ：出自を知る権利は、親が子どもに告知しやすく、子どもが告知されやすい権利に

前提として、提供精子で産まれた子が出自を告知されずに成長した場合、子どもはアイデンティティの危機に苦しみ、親子関係に重大な問題が生じることは、過去の例を見れば明らか。

つまり、**幼少期（出来るだけ早い段階）からの告知が必要不可欠。**

にもかかわらず、

本法案は提供者情報の開示可否（匿名か非匿名か）を成人時まで先送りしている。

匿名か非匿名かが、成人まで未確定となることは、前述の表で示した通り、第2の告知である「提供者が匿名か非匿名かの情報を伝える」基礎に不確定要素が増えることから、子どもへの「AIDで出生した事実の告知」すらできなくなる夫婦が増える傾向を助長しかねない。

5-2. まとめ：出自を知る権利は、親が子どもに告知しやすく、子どもが告知されやすい権利に

一方でこの点において、提供者側から考えると匿名か非匿名かの判断を先送りすることは提供者のプライバシー権を尊重し以って、**提供者不足を回避**できるとする反対意見もある。

しかし、提供者の権利と子の福祉を比較考量するに、**子の福祉（出自を知る）を大前提に進めるべきで、**絶対的に保護すべき対象である子の福祉を犠牲にしてまでも進めるべきではない。

我々の目的は、子どもを授かることではなく、
子どもと嘘偽りのない良好な親子関係を形成し幸せな家庭を築くことである。

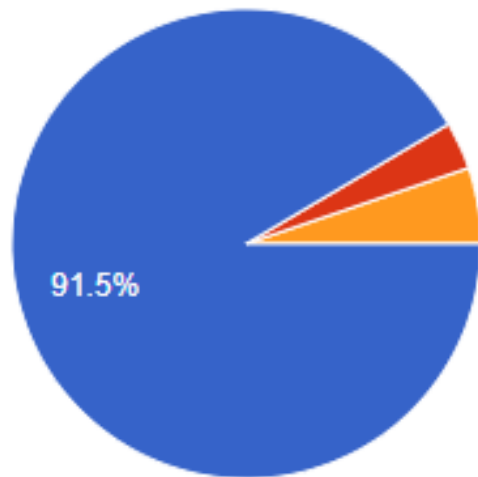
したがって、制度設計としてより親が子どもに告知しやすい、子どもが告知されやすい

提供者が匿名か非匿名かは、提供時に提供を受ける夫婦が知ることが出来る**
法案を要望します。**

参考) 提供者が特定されない周辺情報の開示に対する当事者アンケート結果

提供者が特定されない**周辺情報はすべての子どもに開示すべき** **91.5%** (144人)

- 問2 : 今回の法案では、提供者が特定されないような情報（提供者の趣味・特技・提供者になった理由・病歴など）さえも知ることが出来ない可能性があります。
「提供者が特定されないような情報」だけでもすべての子どもに開示する法案にすべきだと思いますか？



- 開示すべきだと思う
- 開示されなくて良いと思う
- その他

開示すべき内容として、
病歴やアレルギー：50件、
趣味・特技：25件、
提供者になった理由：17件。
その他に、人柄、家族構成、学歴、容姿などがあつた。

ご清聴ありがとうございました。